

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	けいさぼはうす(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設がバリアフリーで身体障害児に適切な環境を提供できる	全ての児童について安全・自立支援・活動の幅を意識して取り組みを行っている ・車椅子・バギー児が全ての活動に参加できる動線設計 ・転倒リスクを減らすための家具配置 ・視覚的配慮(見通しのよい構造) ・感覚過敏児への配慮(静養スペース・光・音環境の調整)	車椅子対応送迎車や座位保持装置などの設備を充実させる
2	看護師が常駐しており医療的ケアに対応できる	健康管理とリスク予防が行っている ・医療的ケア児の個別ケア手順の標準化 ・緊急時対応フローの整備・訓練 ・バイタルチェック・体調観察のルーチン化 ・服薬・処置管理の安全対策	定期的に看護職員のスキルアップ研修及び他スタッフの医療的知識の充実・向上を図る
3	発達障害児の療育について知識経験豊富なスタッフが常駐している	当該スタッフによる定期的な学習会で全体のスキルアップを図り、より良い療育へつなげる ・特性理解に基づく個別支援計画 ・構造化支援(視覚支援・環境調整・予測可能性) ・行動面への機能的アプローチ ・成功体験を重視した課題設定 ・感覚・注意・実行機能への配慮	・支援ノウハウのマニュアル化 → 新人でも一定水準の支援が可能 ・ケース検討会の定期化 → 困難事例・成功事例の共有 ・保護者支援の強化 → 家庭で使える対応法の助言 ・専門性の見える化 → 療育方針・支援理論の説明資料 ・特異別プログラムの整備 → 注意機能/感覚調整/ソーシャルスキルなど

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や園、地域との関わりが希薄	園での生活を知り問題点を明らかにするために、関わりが必要	他事業所・園・地域との関わりを積極的に持つ機会を作る
2	保護者間のコミュニティの場がない	保護者同士の交流を深める機会を設けていない	保護者同士が交流する機会を作る。また、保護者が療育に参加する機会を作る
3	身体障害児の安全に配慮するため、強度行動障害児や多動児の迎え入れに当たり注意が必要	動けない身体障害者の安全確保のために障害によってエリア分けを行い双方に適切な支援を提供しなければならない	パーテーションなどのエリア分け、物品配置など危険要素を排除する工夫を行う